

真っ赤なイチゴ

小粒の苺が好きです。最近は大粒の苺が流行っていますが、真っ赤で小さいのを見かけると、よしんば酸っぱくても、その酸味までもが美味しそうに思えてつい手が出ます。そんな中で、山梨の農家さんが作っている苺で中まで真っ赤なのがありました。写真は包丁での切断面なので白い部分も見えますが、丸かじりすると繊維が流れますので、気持ちいいくらい真っ赤です。大粒苺の白いのを見慣れている眼には、その都度ビックリ！心躍る眺めです。色って大切なんですね。

今から60年近くも昔小学生だったころ、何としても苺を食べたくて、庭の日当たりの良いところに木のリング箱を埋め込んで、苺の苗を2~3本植えこみ、ビニールを被せてみました。そうしましたら数か月もしないうちにリング箱を飛び越して周囲にも苺が拡がり、その後数年間も自作の苺を楽しむことができました。想えば自分で生育した最初の収穫物です。その後このような記憶がありませんので、唯一の自前の収穫物かも知れません。植えただけで特別の施肥などもしなかったのに自然って偉大です。

今はもう手っとりばやくなんでも買ってしまいう時代ですが、またこんな手作りが見直されるようになる時代も来るのかもしれない。せざるを得ない時代にはなって欲しくはありませんが、ため息がでそうなほど不透明な世相です。なんでも心かるやかに楽しく対応できるようにしておきましょう。

明治屋に初めて二人で行きし苺のジャムの一瓶終わる 俵万智

